

キューバは一人じゃない/ハバナでの連帯の日々

RESUMEN Latiamerica and Global South 2026 年 3 月 22 日

[‘Cuba is Not Alone’: Inspiring Days of Solidarity in Havana | Resumen](#)
[LatinoAmericano English](#)

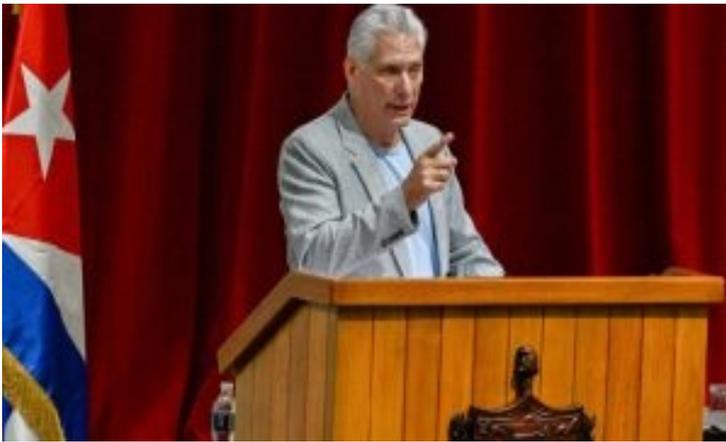


ICAP でのオープニングイベント

トランプ政権がキューバに対する戦争の脅威や経済的締め付けを強める中、国際的な「ヌエストラ・アメリカ・コンボイ（我々のアメリカ船団）」がキューバに到着した。このコンボイには、ほぼすべての大陸にわたる 140 以上の社会・政治・文化団体を代表する、38 カ国から 600 人以上の連帯活動家が集結している。参加者には、正義と主権の実現に尽力する国会議員、裁判官、大使、知識人、労働組合員、地域社会の指導者らが含まれている。

国際人道支援団は、米国による経済的圧力が強まり、侵攻の脅威が高まる中、必需品を届けるため、また同島への国際的な支援を改めて示すために首都に集結した。

連帯支援団は、キューバ人民友好協会（ICAP）で開催された歓迎式典で、ミゲル・ディアス＝カネル・ベルムデス大統領から直接出迎えを受けた。式典では、支援団が食料、医薬品、衛生用品、医療機器、そしてソーラーパネルなどのエネルギー関連物品といった多額の支援物資を引き渡した。これらの支援は、長年にわたる米国の経済封鎖によって引き起こされた苦難を和らげることを目的としている。



コンベンション・パレスで代表団に演説するディアス＝カネル大統領

歓迎の挨拶でディアス＝カネル氏は、この封鎖をキューバ国民を標的とした「経済・エネルギー面での窒息作戦」と表現した。また、支援物資の配送を最大限に確保するため、参加者が旅費や滞在費を自己負担したことに言及し、この支援団の勇気と自費による取り組みに対し、深い感謝の意を表した。

「プログレッシブ・インターナショナル」のコーディネーターであり、主要な主催者の一人であるデビッド・アドラー氏は、このミッションの規模の大きさを強調した。同氏は、この支援隊が、集団的処罰を拒否し、強圧的な一方的な措置の停止を求める世界中の何百万人もの人々を代表していることを強調した。

「我らのアメリカ」支援隊が世界的な抵抗ネットワークを強化

当初、他の人道支援活動に倣って海上船団として構想されたこの取り組みは、急速に多角的な世界規模の支援隊へと拡大した。支援物資は欧州やラテンアメリカから空路で到着し、米国からはチャーター便が、メキシコからは海上輸送便が相次いで到着した。

ユカタン州プエルト・プログレソから出航した「グランマ 2.0」号と、イスラ・ムヘレス島から出航した 2 隻の帆船の計 3 隻が、追加の物資を積んで現在航行中である。このラテンアメリカ諸国による支援は、外部からの侵略に対する地域の結束を強く示している。



支援物資を届ける欧州の連帯活動家たち。写真：エル・ネシオ

参加者たちは、停電、物資不足、インフラの逼迫といったキューバが直面する課題は、主に制裁の強化や金融規制に起因するものであると強調した。この支援物資輸送隊による直接的な支援は、こうした障壁を乗り越えるものであり、実践的な国際主義を体現している。

主催者らは 3 月 21 日を「キューバ連帯国際デー」と宣言し、その結果、世界各国で米国大使館前での抗議活動を含む協調的な行動が展開された。この取り組みはこれまでの動員活動を基盤としており、政策転換を求める国際的な持続的な圧力が示されている。

地政学のおよび地域的な影響

「我らのアメリカ」船団は、一方的な強制措置に対する「グローバル・サウス」の連帯が深まっていることを示している。ラテンアメリカおよびカリブ海地域において、この船団は、CELAC（ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体）が掲げる不干渉と地域の自主決定の原則を強化し、進歩的な政府を孤立させようとする動きに対抗するものである。

世界的に見て、この活動は、経済封鎖が外交政策の手段として常態化している現状に異議を唱え、その人道的代償を浮き彫りにするとともに、国際法上の合法性に疑問を投げかけている。また、米国の経済制裁を非難する決議が毎年採択されている国連総会などの場において、主権の多国間的な尊重を求める声を後押ししている。

ハバナでのこの船団の集結は、進歩的な運動、労働組合、市民社会間のネットワークを強化し、債務救済、気候正義、反帝国主義的抵抗といった問題に関する今後の協調行動に影響を与える可能性がある。キューバにとっては、現在進行中の危機の中で、レジリエンスと士気を高めることにつながる。

兄弟愛と揺るぎない決意」のメッセージ

歓迎式典では、相互の敬意と共通の課題への取り組みが強調された。ディアス＝カネル氏は、保健分野での協力から持続可能な開発に至るまで、共通の課題において協力する用意があることを改めて表明した。



写真：リカルド・ロペス・エビア

活動家たちは、封鎖が解除されるまで活動を続けるという決意を改めて表明した。多くの人が、家族との絆や文化的親和性、あるいは逆境にもかかわらず教育や医療の分野で成し遂げたキューバの成果への敬意など、個人的なつながりを強調した。

新たな代表団が到着し、支援物資の配布が始まる中、「ヌエストラ・アメリカ・コンポイ」は、人々と人との絆による外交の力強い象徴となっています。これは、連帯が国境を越えるものであることを示しており、具体的な支援を提供すると同時に、国際関係における構造的な変革を求めているのです。

二極化と力の不均衡が顕著なこの世界において、こうした取り組みは、正義に根ざした集団的行動こそが、支配的な物語に異議を唱え、自決権を守る国々を支援し得ることを私たちに思い出させてくれる。

関連記事

[連帯船団が、キューバ支援物資を輸送](#)

アメリカ大陸の活動家たちは連帯船団を組んでキューバに人道支援物資を届けた。彼らは制裁措置の停止と継続的な対話を求めた。

[telesur「連帯船団が、キューバ支援物資を輸送」：鈴木頌の発言](#) [国際政治・歴史・思想・医療・音楽](#)